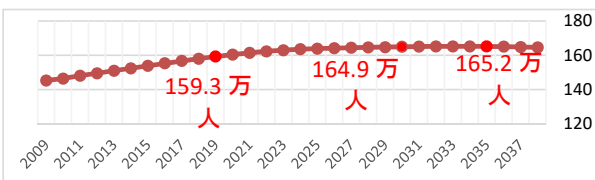


1.ごみ処理量の一次推計（前回説明資料抜粋）

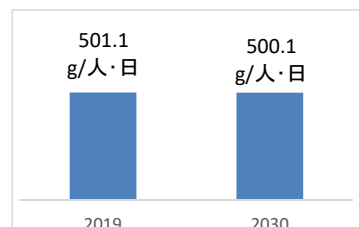
(1) 家庭ごみ

・人口推計と市民一人当たりのごみ処理量を用いて推計

【人口推計】



【家庭ごみ原単位】



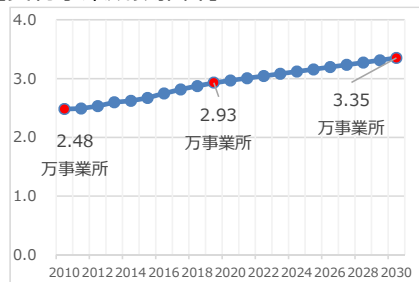
(2) 事業系ごみ

・事業系ごみは許可収集ごみが減少傾向、自己搬入ごみが増加傾向にあることから別々に推計。

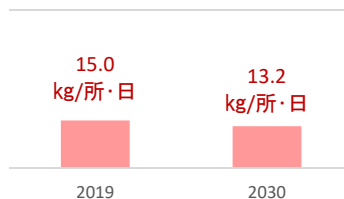
①許可収集ごみ

・許可収集契約事業所数推計と1事業所当たりのごみ処理量を用いて推計

【契約事業所数推計】



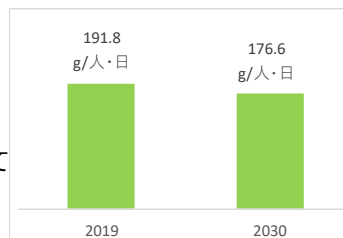
【許可収集ごみ原単位】



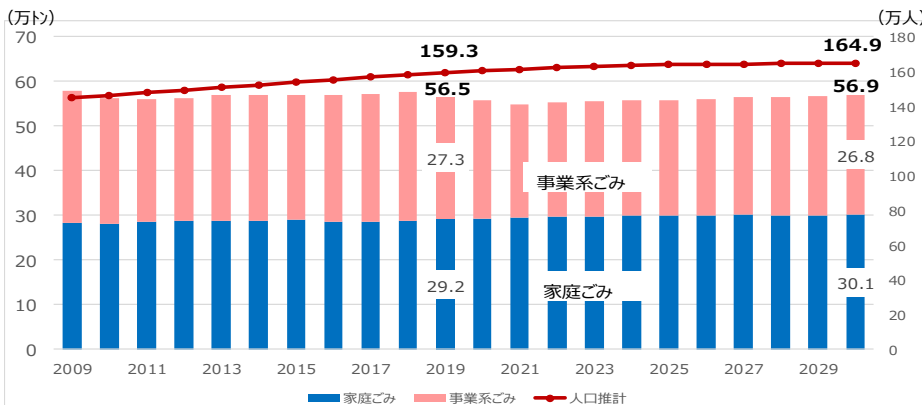
②自己搬入ごみ

・自己搬入ごみは事業所数の増加ではなく、搬入実績等から主に建設系廃棄物の増加によるものと考えられる。
・建設系廃棄物は人口増加により、リフォーム等の需要が今後も高まることが考えられるため前述の人口推計を用いて推計

【自己搬入ごみ原単位】



(3) ごみ処理量の一次推計



2.ごみ処理量の二次推計の考え方について

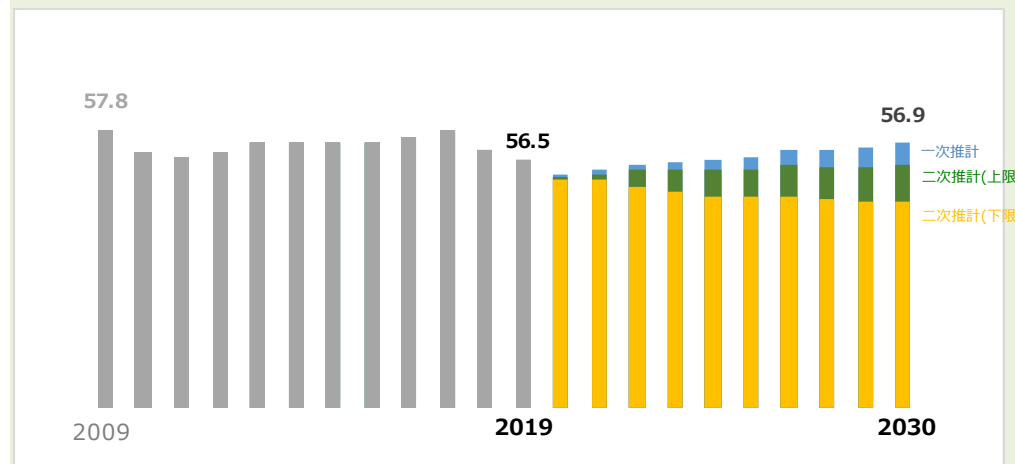
(1) 二次推計の考え方

今後新たに実施するごみ減量施策の効果を踏まえてごみ処理量を推計するが、**コロナ後の経済状況やごみ減量施策の削減効果の発生状況など不確定要素**もあることから、以下のとおり、**二次推計は幅を持たせた推計**とする。

- ① 一次推計：既存施策を継続した推計
- ② 二次推計（上限）：経済状況等の変化があっても、施策により最低限減量できる量を見込んだ推計
- ③ 二次推計（下限）：経済状況等が見込みどおりであり、施策により減量効果が十分に発揮された場合の推計 **（減量目標）**

(2) 二次推計のイメージ

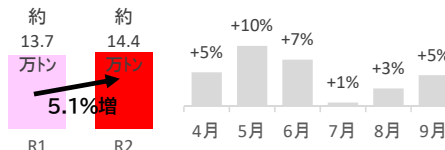
上記の考え方を踏まえて、次回の作業部会では、以下のイメージで二次推計を示す。



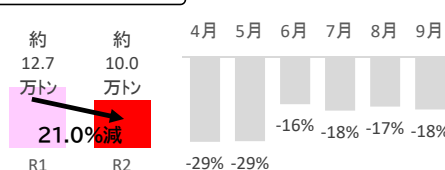
(参考) 新型コロナウイルス感染症によるごみ処理量の影響

家庭ごみ処理量

【前年度比】



事業系ごみ処理量



○家庭ごみ処理量

- ・在宅時間の増加により、6月までは増加傾向
- ・7月以降は前年並みの量

○事業系ごみ処理量

- ・事業活動の低迷により減少
- ・回復傾向はみられるものの、未だ減少傾向が続く

○影響に対する考え方

- ・短期的に事業系ごみ処理量が減少傾向
- ・長期的には、経済状況の影響により変動が見込まれる
- ・長期的な見通しが不透明なことから、現時点では二次推計に幅をもたせることで対応